

大麻高校パソコン部



活動の軌跡

平成28年) 江別産レンガに着目

～判明したこと～

レンガ=住宅用建材として
耐久性・保温・保湿に
優れた夢のエコ素材

平成29年) レンガの普及を考察

アンケートを実施して、水害に
対する市民の危機感を知った

レンガを水害防止に役立てたい

「大麻高校パソコン部 活動の軌跡」

私たちパソコン部は、ゲーム製作などを通じて「パソコン技術の向上」を図るほかに、日頃お世話になっている江別市の「地域企業の活性化」と「地球環境に寄与する」という研究テーマを持って活動しています。

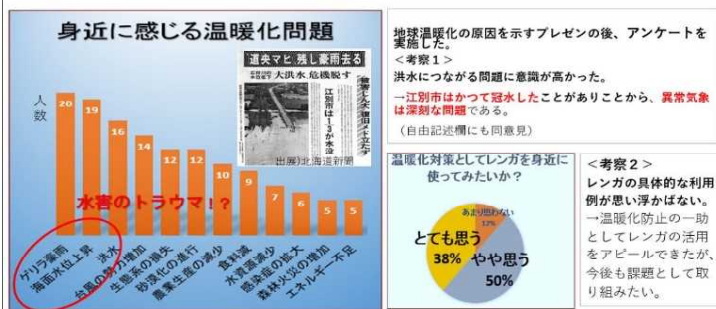
ここでは私たちの研究成果についてご説明します。



<平成28, 29年>

江別市はレンガの産地として有名ですが、レンガこそがコンクリートと比較できないほどの、地球環境に優しく、安全でエコな建築素材と判りました。つまり、レンガの普及は、町を豊かにさせるだけでなく、地球を守ることもつながります。レンガを更に普及させるために、私たちは建築以外の用途について考え始めました。

来場の方々にアンケートを実施



令和元年) レンガ普及についての提言

ガーデニングで使用しているレンガ
を非常時に役立てる工夫

江別市役所総務部危機対策室に助言を頂く

<令和元年>

私たちは商業施設EBRIでレンガに関するプレゼンを行なった後、対面アンケートを実施しました。その結果、江別市民の多くの方が「水害」に対して不安を感じていることが判りました。

そこで、家庭や市内の避難所にガーデニング素材としてレンガを備蓄していただき、非常時にそれを活用する方策を考えました。市役所総務部危機対策室にてプレゼンを行い、貴重な助言を頂きました。

感謝状
北海道大漁漁業 感謝状
令和2年度 避難生活を快適に！
パソコン部
PCでホームページ制作・
パワーポイント作成・プレゼン発表会
▶入部する
▶体験入部する
大府高校パソコン部

避難生活における
江別レンガの活用法
災害の想定
避難生活にレンガを使いませんか？
緊急時に…
米(1合)は約22分間で炊けた
ここが備蓄レンガの見せ所！
まとめ
令和2年度実績
江別市立総合福祉センターにてプレゼン実施

令和2年) 地球温暖化の切り札はレンガと推定
CO₂を最も多く排出しているのは海。
海の光合成で温暖化が防げるのでは？
海生物に優しいレンガを海中で使用すべき

<令和2年>
日高管内の水産業者より、年々昆布の収穫量が減少していることを伺い、従来から使われているコンクリート製の魚礁に問題があるのではないかと推測しました。
ほくでん総合研究所の辻野博士を訪ね、レンガの魚礁が海洋生物に優しい素材と判りました。これを使うと海藻による光合成が期待できるために、地球温暖化にブレーキをかけることができるかもしれません。レンガを海中で使う有用性をプレゼン大会に出場して説明しました。

地球温暖化対策
～江別レンガを海で使ったら～
北海道大府高校パソコン部
漁業関係者の声
令和2年度の成果
マイプロジェクトアワード2020に出場
レンガは「地球温暖化」に有効、海中でも使うべき！
魚礁素材はコンクリートが主流
コンクリートを塩水につけて調べた
レンガをお勧めするその理由
寿命は半永久的
頑丈で長持ち
有害物質を含まない
環境に優しい・リサイクル可能
海の生き物に好まれる
生成時のCO₂排出が少ない

令和3年) 道内コロナ禍に対して提言
不景気と自殺者数には負の相関関係がある。
電気料金を下げて、命を救ってほしい。
原発を休炉にしても高コスト。
ならば期間限定で運転できないか？

<令和3年>
新型コロナウイルスによる社会不安が、私たちの生活に大きな影響を与えました。特に、不景気と自殺者数の間には「負の相関関係」があることを知り、大変心が痛みました。せめてコロナ禍の冬季だけでも北海道の電気代を引き下げて貰えないか、そして道民はどのようにしてコロナ禍にある生活を送るべきかを考察し、Zoomによるプレゼン大会に出場し、提言を行いました。

コロナ禍の北海道を助けたい



北海道大森高等学校パソコン部

令和3年1月30日

コロナ関連倒産 851件



休業業・解散件数 2.3万件



昨冬との違い（飲食店の声）

感染対策：消毒機・スプレー設置
換気対策：加湿機・サーキュレーター設置
経済対策：消毒費用・客減減・客単価減
問題点：固定費・対策費・電気代の高騰

令和3年度 成果

研究発表Zoom出場



優先されるべきものは？

現実の生活 働く人の命 時間との闘い
原子力の諸問題 原子力発電に対する不安



まとめ
こんな時期だから...
コロナ収束までの「期間限定」で泊発電所稼働
知恵と笑顔でコロナ禍を乗り越える！

令和4年) コロナ禍の小・中学生に夢を

閉塞感を打破し、想像力を啓発する

「からくりの道～オン・ザ・デスク」実施

子ども達に笑顔を取り戻す試み

→ 体験会には500名超の応募！！

<令和4年>

コロナ禍にあって、小中学生から笑顔が消えてしまったように感じました。そこで、「からくり装置」をつくる「体験会」と「コンテスト」を企画し、江別市教育委員会と㈱イチムラさんの協力を得てこれらを行いました。

500名を超える参加希望者がありましたが、安全を図るために抽選を行いました。この時の様子は北海道新聞を始めする各種メディアから取材を受け、広く報道されました。

**からくりの道
～オン・ザ・デスク～
体験会**

君もからくり装置を作ってみないか？
はじめての方も大歓迎！！

大森高校パソコン部製作の
からくり装置はここからCheck⇒

6/19日 13:30～

場所 野幌公民館ホール(野幌町16-3)
対象 市内在住の小中学生とその家族
参加費 無料 定員 50名
(応募者多数の場合は抽選となります)
申込 裏面申込書をFAX・メール・持参
または電話

申込: 江別市青少年のための市民会議事務局(江別市教育委員会生涯学習課)
住所: 江別市高砂町24-6 TEL 011-381-1066 FAX 011-381-3434 メール shogaisakibei@city.aburatsubo.jp



<令和5年>

今年で三回目となる「からくりの道」企画を実施しました。前回に続き、「理科実験」や「合唱」を取り入れることで、子ども達のたくさんの笑顔に接することが出来ました。この時、子ども達の笑顔が、周囲の保護者や大会関係者を笑顔にしていたので、実際に笑顔は人に伝播するのかが「僕らの実験」という動画を作って検証しました。

この動画は、「第16回アジア国際子ども映画祭」に出品され、北海道南ブロック予選で「大会長賞」に選ばれた後、本選大会で「審査員特別賞」を受賞しました。(※全日本で二位に相当します)

笑顔は伝播して、人々を幸せにさせます。
本選授賞後に開かれた懇親会では、アジア諸国から集まった高校生たちと笑顔の交流を行い、言葉を超えて親睦を深めることが出来ました。

今回の作品はこちらです→



大森高校パソコン部 活動の軌跡

私たちの部は、代々「パソコン技術の向上」のみならず、「プレゼン発表に向けての研究」を活動の柱としている。

平成28年、地元江別市の特産品であるレンガに着目した研究を始めて以来、多くの研究を行ってきた。江別名産の日持ちを良くする研究や、廃材で作る健康器具の商品化など、日の目を見なかった研究も多々ある。特にコロナ禍にあっては、「失業率と自殺者数の負の相関関係」を知り、日本で一番高い電気料金を払う北海道民のために、電気代を下げてもらう提案も行った。日々の取り組みを実績という形で表すことは出来なかったが、校外に出て様々な人に教える度に、先輩方が築いてこられた学校の看板のありがたさを知り、個人的にも経験値を高めることに繋がった。

令和4年、我々は地元の子どものための企画を立ち上げた。「からくりの道」と呼ばれる、ものづくり企画である。江別市教育委員会や地元の家具メーカー 株式会社イムラさんの力を借りて、盛大に行われ、今では常に定員の数倍を超える申込者数がある名物企画に成長した。この企画では、子ども達の笑顔に接した大人達がいつも笑顔になっていたことから「笑顔は人に伝播するのではないか？」という研究テーマを得て、「僕らの実験」という動画で検証し、「アジア国際子ども映画祭」に出品した。その結果、審査員特別賞（日本の中で2位となる）を受賞した。

パソコン部には、すべての活動において大切にしているものがある。それは「探究心」である。ネットや書籍に答えが出ていても、実際に研究して全力で探究しなければそれは本当の知識にはなり得ない。令和6年は「Well-being社会実現に向けて高校生が出来ること」というテーマで、実証実験を行った。この結果はアンケートを集計し分析の後、まもなく発表できるかもしれない。

パソコン部では、深い「研究」や「探究」を通じて、今まで味わったことのない「わくわく感」や「学びの楽しさ」を経験することが出来る。私自身、「発信」する機会を多く得て心の成長を遂げることが出来たと自負している。高校生生活を充実させたい人には、是非この部を覗いてみる事をお勧めしたい。

39期生 部長 谷地田 春翔

<令和6年>

今年で四回目となる「からくりの道」を開催しました。皆様のご協力もあって参加申し込み者数も定員の3倍を超えるなど、人気も定着してきた感が見られます。

今年は例年好評だった「合唱」や「理科実験」の他に、本校の教職志望の生徒たちによる「出前授業」と、保護者を対象としたプレゼンの時間を設け、学びの楽しさを体験していただきました。今回の企画は「Well-being社会」実現に向けての実証実験を含んでいます。アンケートを通じて得られたデータをまとめ、このテーマの実現に向けてさらに研究を進めていきたいと思っています。



